

はじめに

志田 順 先生が京都で地球物理学研究を始められてから 2009 年がちょうど百年に当たることから、この年度に国際高等研究所のフェロー研究会「京大地球物理学研究の百年」を 3 回にわたって開催した。当初、研究会の集録を印刷する予定はなかったが、研究会の世話人として加わっていた廣田 勇・荒木 徹・両名誉教授と私の 3 人で検討した結果、計 3 回の研究会の講演録に加えて、講演者以外からも京大地球物理学研究百年の歴史に関連した寄稿を集め、それらを集約した冊子体の集録「京大地球物理学研究の百年」を 2010 年 3 月に刊行した。

その後、世話人の中で読者からの反応を含めて検討を重ねた結果、集録本篇では手薄であった海洋物理学・陸水学・温泉学分野の研究の歴史展望や京大から数多くの隊員を派遣している南極観測についての記述を中心とした集録「京大地球物理学研究の百年 (II)」を 2010 年 10 月に刊行した。この集録 (II) には、かつて京大の学生や教員であり、現在は学外で活躍しておられる方々に「外から見た京大」というテーマで寄稿をお願いしたほか、京大地球物理学研究の重要な柱である海外共同観測や国際貢献についての章も設けた。

集録 (I) と (II) の目次を巻末に付録として掲載してある。

集録 (II) の発刊後、さらに世話人 3 人で、「京大地球物理学研究の百年」の今後について議論を重ねたが、「京大地球物理学研究の百年」の歴史の掘り起こし作業をさらに継続して実施することが必要であることで意見が一致した。そのためには、集録 (I) 及び (II) で漏れている分野の紹介を中心とした集録の続編を刊行することと、さらに、教室関係の資料はなるべく地球惑星科学専攻の図書室に集めるように努力し、教室歴史関係図書のコーナーを設けてもらうことを要望したいという結論になった。これらの作業を継続して行うためには個人的な動きでは限界があるので、しかるべき組織のもとに「京大地球物理の歴史を記録する会」を作ってもらい、そこで組織的なバックアップを得て、活動を継続することが望ましいということになった。

その後、2011 年 2 月 19 日に開催された地物同窓会で、世話人の 1 人である荒木 徹が京大地球物理学教室同窓会の会長に選出された。そこで早速、荒木会長は、「京大地球物理の歴史を記録する会」の設置を同窓会幹事会に提案し、その了承を得た。こうして、京大地球物理学教室同窓会のもとに「京大地球物理の歴史を記録する会」が発足したのに伴い、早速、荒木会長から委嘱されて、竹本修三・廣田勇が編者となり、集録「京大地球物理学研究の百年 (III)」の発刊準備が始められた。

集録 (III) では、「京大地球物理学研究の百年」の集録 I、II に続く歴史記述のほか、理学部の地質学鉱物学教室・宇宙物理学教室及び工学部で行われた地球物理学研究の記述を関係者に依頼するとともに、「思い出に残る京大の講義・演習・実験・論文指導等」の原稿を同窓会を通じて卒業生に広く公募した。こうして集められた原稿をまとめたのが本集録 (III) である。これが、京大地球物理学研究の過去を振り返り、将来のさらなる研究発展に繋がることを期待したい。

(竹本 修三)